

【ご注文承ります】

中国秘密社会通史 1-4

秦宝琦／商務印書館／2024年3月／精装／ISBN 9787100183338

税込 34,540 円 (500408)

「中国秘密社会」とは、戦前の日本人アジア主義者・平山周の著作で初めて提唱され、こんにちの学界では、秘密教門（宗教系秘密結社）と会党（非宗教系秘密結社）とを併せた概念とされる。秦宝琦（1937-）中国人民大学清史研究院教授は、1970年代より中国秘密社会の研究を開始し、1993年から2009年にかけて、『中国地下社会』全3巻（清前期秘密社会・晚清秘密社会巻・民国会道門与黒社会巻）を学苑出版社より刊行した。

同書の成果を基調としながらも、本書では大きく構成を見直し、秦宝琦自身が参画した『清代前期天地会史料集成』（中国人民大学出版社、2020年）などの成果も取り入れて、分量にして『中国地下社会』から3割近くの増量となった。各巻の構成は以下の通り；

第1巻は、宗教系秘密結社の起源と、清代の白蓮教・羅教・弘（紅）陽教・聞香教・無為教・姚門教・八卦教・清水教・老官齋教・混元教・収圓教・悄悄会・天理教・青蓮教・真空道・金丹道・在理教・武聖教等の活動と組織消長について解説する。

第2巻では、一貫道を中心に、その他同善社・一心天道龍華聖教会・紅槍会等など、民国期の民間宗教団体の活動について論じる。

第3巻は、代表的な会党である天地会の結成と清代各時期の活動を中心に、その他小刀会・紅銭会・八卦会といった反清団体の動きについても解説する。

第4巻では、天地会・哥老会・青幫をはじめ、海外洪門や各地の幫会が辛亥革命において果たした役割を、組織ごとに細かく分析する。また、辛亥革命後の民国社会において、これら幫会がどのように関与・変容していったのかについても論じる。



ご注文・お問合わせ